

生分解性マルチとタバコの生育

福島県たばこ試験場

平成14年度試験研究成績概要

1 部門名

特用作物－タバコ－施設資材

分類コード 06－01－35000000

2 担当者

吉田辰雄

3 要旨

「①タバコ栽培における葉たばこ収穫後のマルチ資材の回収作業の省力化を図る。②マルチ資材の焼却による環境汚染を回避する」ことを目的として、土中などで微生物により最終的に水と二酸化炭素に分解される生分解性マルチフィルムのタバコ作への適応性について検討した。

以下、マルチフィルムをシルバーマルチフィルムから生分解性マルチフィルムに変えた場合の生育の相違等を記した。

- (1) 生分解性マルチフィルムの晴天時地温(畦面下10cm)は、シルバーマルチフィルムの地温より平均で0.7℃高い(25.3℃)ため、移植後30日では草丈が約2cm高く伸長し、地上葉数は約1枚多かった。
開花期での生分解性マルチフィルム区の草丈は、シルバーマルチフィルム区の草丈より約15cm低く、地上葉数は0.4枚～2.8枚少なかった。最大葉の位置では約1枚低く(7.5枚目)、生長量は小さかった。
平成14年度は開花期で2日早く、下葉収穫で7日早く、合葉収穫で5日早かった。
- (2) 晴天時の地温日隔差が大きい。

畦面下10cm地温	最高	最低
生分解性マルチフィルム	31.4℃	19.8℃
シルバーマルチフィルム	30.0℃	19.4℃
- (3) 雑草の発生数は少ないが、草量は大きい。
- (4) 品質は良好(Aタイプが22%～59%増、kg当たり単価が4%～11%高)であるが、収量は4%～18%減収した。
- (5) 降霜障害を受けやすい。

4 その他の資料等

平成10年～14年度試験研究成績概要